

## 平成26年度 第1回 国立大学法人北海道大学経営協議会議事要旨

日 時 平成26年6月9日(月) 13:15~16:00  
場 所 事務局 第一会議室A  
出席者 23名  
(学内) 山口総長, 三上, 上田, 新田, 安田, 川端, 鑄山, 村田, 小内, 寺尾, 寶金, 高岡 各委員  
(学外) 五十幡, 石山, 近藤, 富田, 林, 樋口, 平山, 増山, 松谷, 山崎, 横山 各委員  
欠席者 1名  
(学外) 高井委員

### 議 事

総長から, 委員の交代及び再任があったことから, 委員の紹介があった。

また, 議事に先立ち, 平成26年3月18日の平成25年度第4回経営協議会の議事要旨について確認を行った。

#### 【 議 題 】

##### 1 総長選考会議委員の選出について

総長から, 総長選考会議について説明があった後, 本協議会選出の委員4名が本年3月末日で任期満了となったことから, 後任委員を選出する必要がある旨説明があり, 全出席委員による投票により行うことが了承された。

次いで, 投票立会人を寶金委員及び高岡委員に依頼すること, 投票同数の場合の決定方法及び補欠委員の選出等について説明があった後, 投票が行われた。

投票の結果, 総長選考会議委員として, 石山, 林, 平山, 横山の4委員が, 補欠委員として松谷委員(次点), 樋口委員(次々点)がそれぞれ選出された。

##### 2 平成25事業年度に係る業務の実績に関する報告書について

三上理事から, 資料に基づき説明の後, 審議の結果了承された。

なお, 委員から, 「教学評価体制(IRネットワーク)による学士課程教育の質保証」について, 取組の実施にあたっては, PDCAサイクルを意識することが重要と思われる旨発言があった。

また, 委員から, 利益相反への対応策について質問があり, 安田理事から, これまでに利益相反に関する学内説明会等を行っているが, 今後も適宜セミナーを開催する等, 利益相反の適切な管理のための取組を進める予定であること, 並びに, 川端理事から, 企業等との組織的連携によって共同研究を実施する「産業創出講座等」の制度を新たに作り, 寄附と共同研究の区分を明確にした旨発言があった。

##### 3 現代日本学プログラム課程に受け入れる外国人留学生に係る日本語研修コースにおける奨学制度について

上田理事から, 資料に基づき説明の後, 審議の結果了承された。

#### 4 平成27年度概算要求事項について

村田理事から、資料に基づき説明の後、審議の結果了承された。

なお、委員から、「産学・地域協働推進機構の創設」について、産学連携本部をはじめとする既存の組織強化を図ることとしたにもかかわらず、新たに組織を設けることの意図について質問があり、これに対し、川端理事から、本機構の基軸となるのは既存の産学連携本部や、この4月に立ち上げたフード&メディカルイノベーション推進本部であり、研究に関しての創成研究機構、教育に関しての高等教育推進機構に加え、産学連携・社会貢献に関して新たに機構を設け、全学的な視点に立って推進及び支援を行う構想である旨説明があった。

また、委員から、「札幌農学校の伝統を活かしたパイオニア教育基盤の強化」について、サブタイトルに「国際食資源学院」という文言があるが、水・土の分野も含めた構想と理解して良いか、また、農学部が中心ということであるが、むしろ農業経済に関するリーダー育成に力を注ぐべきではないかとの発言があった。これに対し、安田理事から、文部科学省への説明等を考慮して昨年度調査事業として採択された際の事業名を付しているが、水・土の分野も含めた構想として考えていること、また、文系も含めた文理融合の構想として大学全体で取り組むものである旨発言があった。

さらに、委員から、「国際化教育機能強化と理工系英語教育基盤の整備」について、日本人学生に対する英語教育においては、自発的な学習を誘導するきっかけ・機会をプログラムとして提供するといった「気づきの教育」が重要と思われる旨発言があった。

最後に、総長から、文部科学省に要求を行う際には順位を付す必要があるが、これについては一任いただきたい旨発言があり、了承された。

#### 5 平成25年度決算について

村田理事から、資料に基づき説明の後、審議の結果了承された。

#### 6 国立大学法人北海道大学業務方法書の変更について

村田理事から、資料に基づき説明の後、審議の結果了承された。

#### 7 規程の改正について

村田理事から、資料に基づき説明の後、審議の結果了承された。

### 【 報告事項 】

#### 1 産学・地域連携の活動状況について

川端理事から、資料に基づき報告があった。

なお、委員から、産学官連携強化に向けた各種取組によって、従来と比較して一体感が生まれているとの声に関係の企業等から挙がっており、今後も引き続き取組を進めていただきたい旨発言があった。

また、委員から、基礎研究のアイデアを実用化に繋げるべく、若手研究者に対して広い視点を持たせる方向性での施策が重要と思われる旨発言があった。

さらに、委員から、研究シーズや知的財産を企業に売り込むうえで、北海道懇談会の場や企業研究セミナーへの参加企業とのコネクション等の活用が有効である旨発言があった。

2 「北大フロンティア基金」の寄附受入状況等について  
 鑄山理事から、資料に基づき報告があった。

3 職員の給与について  
 村田理事から、資料に基づき報告があった。

( 以 上 )